



最初にお読みください

CentreCOM® ARX640S リリースノート

この度は、CentreCOM ARX640S をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 5.1.6

2 本バージョンで追加された機能

ファームウェアバージョン 5.1.5 から 5.1.6 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

2.1 サポートする USB 型データ通信端末の追加

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」

下記の USB 型データ通信端末をサポートしました。

- ・ NTT ドコモ L-03F
- ・ NTT コミュニケーションズ UX302NC

なお、サポートする USB 型データ通信端末の最新情報は、弊社ホームページでご確認ください。

3 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 5.1.5 から 5.1.6 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 DHCP リレー機能において、トンネルインターフェースを経由した DHCP パケットの転送ができませんでしたが、これを修正しました。
- 3.2 IPv6 トンネル機能において、フラグメント処理を必要とする TCP 通信が発生した場合、通信ができなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 3.3 VRRP 機能を有効にし、機器を再起動した場合、起動後すぐに VRRP Advertisement パケットを送信しないことがありましたが、これを修正しました。
- 3.4 VRRP 機能が有効になっている状態で、以下の各コマンドが設定できてしまいましたが、設定できないように修正しました。
 - ・ virtual-ip
 - ・ priority
 - ・ advertisement-interval

- ・ circuit-failover

4 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン 5.1.6 には、以下の制限事項があります。

4.1 USB デバイスを接続した状態での起動

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「システム」](#)

USB デバイスを接続した状態で本製品を起動した場合、起動中に意図しないメッセージが表示され、また、起動後に USB デバイス関連のログが記録されないことがあります。表示およびログ記録だけの問題であり、USB デバイスの動作には影響ありません。

4.2 USB LED 表示

 [「取扱説明書」](#) 17 ページ

- USB ポートに挿入した USB 型データ通信端末を抜いたとき、該当ポートの LED が消灯しない場合があります。
- USB 型データ通信端末および USB メモリーを挿入している状態で PPP 接続を行っているとき、USB メモリーを挿入したポートに clear device usb port コマンドを実行すると、USB 型データ通信端末を接続したポートの LED が緑点灯から橙点灯になりますが、動作に影響はありません。

4.3 USB メモリーの操作

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「システム」](#)

USB 型データ通信端末が挿入されている状態で、もう片方の USB ポートに USB メモリーを挿入した場合、USB メモリーの操作が正常に行えないことがあります。この場合、clear device usb port コマンドで該当 USB ポートを再起動してください。

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「システム」](#)

4.4 erase flash コマンド

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「ファイル操作」](#)

erase flash コマンドで、フラッシュメモリー上に存在しないファイルを指定して実行すると、しばらくスリープ状態になります。スリープ状態のときに「Ctrl+C」キーを押して処理を中断すると、show flash コマンドでファイルの表示ができなくなってしまう場合があります。その場合は、ログアウトし再ログインを行ってください。

4.5 SSH サーバー

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「Secure Shell」](#)

本製品が SSH サーバーとして動作するとき、DNS リレーが有効で、かつ DNS サーバーのアドレスが登録されていない場合、SSH クライアントから本製品への接続に時間がかかる場合があります。

4.6 PPP プロファイルの設定変更

 [「コマンドリファレンス」 / 「PPP」](#)

PPP プロファイルの設定を変更した場合、保存していない設定が削除されることがあります。その場合は再度設定してください。

4.7 LCP Configure-Request の再送間隔

 [「コマンドリファレンス」 / 「PPP」](#)

LCP Configure-Request パケットの再送間隔が lcp timeout コマンドの設定値より短くなっています。

4.8 BVI インターフェース

 [「コマンドリファレンス」 / 「ブリッジング」](#)

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP ルーティング」 / 「IP インターフェース」](#)

- BVI インターフェース（ブリッジグループ全体を表す仮想的なインターフェース）では DHCP クライアント機能（ip address dhcp コマンド）を使用できません。
- BVI インターフェースを使用する場合に、Bridge インターフェースにて Bridge 機能を無効にすると、BVI インターフェース経由での L3 通信ができなくなる場合があります

4.9 OSPF インターフェース数

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP ルーティング」 / 「経路制御 \(OSPF\)」](#)

OSPF セッションを確立可能なインターフェースの数は最大 20 です。

4.10 BGP Hold Time

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP ルーティング」 / 「経路制御 \(BGP\)」](#)

BGP の Hold Time を 0 に設定しないでください。Hold Time を 0 に設定した場合、BGP ピアが再起動などのため再接続を要求してきても、本製品がこれを拒否するため、それ以降 BGP セッションを確立できなくなります。

4.11 IPv6 近隣要請 (NS) パケット

 [「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 ルーティング」](#)

システム起動直後に受信した IPv6 近隣要請 (NS) パケットを破棄することがあります。

4.12 MAC フィルター

 [「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」](#)

MAC フィルターと以下の機能を同一インターフェースで併用した場合に、MAC フィルターの統計情報で hits の値が実際のパケット数の倍カウントされます。

- ・ DHCP サーバー
- ・ DHCP リレー
- ・ UDP ブロードキャストヘルパー

なお、異なるインターフェースで使用した場合には本現象は発生しません。

5 取扱説明書の補足・誤記訂正

取扱説明書（613-001384 Rev.B）の補足事項です。

5.1 サポートする USB 型データ通信端末

サポートする USB 型データ通信端末につきましては、弊社ホームページでご確認ください。

6 取扱説明書とコマンドリファレンスについて

最新の取扱説明書（613-001384 Rev.B）とコマンドリファレンス（613-001491 Rev.E）は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記の取扱説明書とコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちの取扱説明書・コマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※ パーツナンバー「613-001491 Rev.E」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>